
可愛い動物

坂田火魯志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
可愛い動物

【Nコード】
N5997S

【作者名】
坂田火魯志

【あらすじ】
女房に言われて子供達を連れて動物園に来てみた。そのカンガルーに冗談でガンを飛ばすと。SmileJapan企画作品です。カンガルーにも注意しましょう。

第一章

可愛い動物

松崎国男の仕事はトラックの運転手だ。高校時代は所謂不良である。今も髪は今時ではないのではないかと言いたくなる見事なリーゼントに剃り込みだ。しかも眉も細くしている。

そして柄の悪い着こなしに如何にもといった服装である。暴走族そのままの服だがとりあえず卒業はしている。

仕事は真面目にやっていて今は喧嘩もしないがとりあえず柄が悪いのがトレードマークになっている。それでもちゃんと結婚して子供もいるから世の中わからない。

その彼がだ。家族の為というよりは高校時代から付き合っただけに至る女房に言われてだ。それで動物園に来た。そこで自分の子供達に色々な動物達を見せていた。

「あれがキリンだよ。首が長いだろ」

「ライオン格好いいだろ」

「ペンギン寒そうだろ」

そんなありきたりのことを言いながらだ。子供達をあちこちに連れて行ってだ。そのうえでその色々な動物達を見せていくのである。当然女房も一緒だ。その中でだ。

彼は女房にだ。こう言われたのだった。

「カンガルーのコーナー中に入られるんだって」

「へえ、じゃあ中に入れてみるか」

こうして実際に店の中に入る。そうしてカンガルーを見てだった。彼はこんなことを言うのだった。

第二章

「大きいんだな、案外」

「そうね。大きいわね」

女房も彼のその言葉に応える。本当にありきたりな言葉だった。そしてそのうえでだった。国男はだ。カンガルーに何を思ったかガンを飛ばした。冗談でそうしたのだ。

動物にガンを飛ばしても何にならないだろう、そう思っただけの悪戯だった。しかしだ。

カンガルーはだ。いきなりだった。

その彼にだ。パンチを飛ばしてみた。脅威の右ストレートが彼の頬を直撃した。

頬を打たれた彼は大きく後ろに吹き飛ばされてしまった。そのうえで倒れ込んでしまった。かなり効いた一撃だった。

何とかそこから立ち上がった彼にだ。動物園の人が言うのだった。

「カンガルーはボクシングしますから。注意して下さいね」

「おい、そんなこと早く言えよ。滅茶苦茶効いたぞ」

「悪戯とかしたら本当に危ないですから気をつけて下さいね」

「そんなのに子供触れさせるんじゃないやねえよ。大人が吹き飛ばされたんだぞ」

「ですから。注意して下さいと言ってるじゃないですか」

「殴られてからじゃ遅いんだよ」

こうだ。殴られてから言う彼だった。何はともあれだ。カンガルーという生き物は外見は可愛いがその実は非常に乱暴な生き物であることをだ。身を以てわかった彼だった。女房と子供達に笑われたうえで。彼にとっては非常に高くついてしまったガン飛ばしであった。

可愛い動物

完

2011・4・19

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5997s/>

可愛い動物

2011年10月3日00時07分発行